



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成30年7月30日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 小林 健一郎 (TEL) 03-3433-3311
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績 (平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	16,624	0.8	228	△55.5	294	△48.0	144	△58.4
30年3月期第1四半期	16,498	△0.9	513	△45.3	566	△44.4	346	△45.5

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 233百万円(△51.3%) 30年3月期第1四半期 479百万円(26.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	6.74	—
30年3月期第1四半期	15.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	48,183	33,860	69.4
30年3月期	46,595	33,819	71.6

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 33,415百万円 30年3月期 33,383百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	33,000	3.0	500	7.7	600	2.5	350	△17.1	16.35
通期	65,000	3.1	1,000	212.6	1,100	131.7	600	87.7	28.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

31年3月期1Q	22,689,000株	30年3月期	22,689,000株
31年3月期1Q	1,284,040株	30年3月期	1,284,040株
31年3月期1Q	21,404,960株	30年3月期1Q	22,230,960株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、各種政策効果による企業収益の回復や雇用・所得環境の改善などにより、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国の通商政策による貿易摩擦のリスク、欧州の不安定な政治情勢、金融資本市場の変動の影響などが懸念され、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場は、世界最大のコーヒー生産国であるブラジルの豊作による供給量増の見通しや、消費国の潤沢な生豆在庫量などを背景に、総じて安定した動きで推移しました。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループガバナンスの深化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

また、当社のフラッグシップブランドである「トアルコ トラジャ」コーヒーについては、発売40周年を迎え、全社一丸となってその価値の訴求と販売拡大に取り組んでおります。

業績につきましては、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、166億24百万円(前年同期比0.8%増)、営業利益は2億28百万円(同55.5%減)、経常利益は2億94百万円(同48.0%減)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億44百万円(同58.4%減)となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(コーヒー関連事業)

業務用市場では、厳選した生豆を長年培われた焙煎技術とブレンド技術により作り上げたグルメコーヒー「クレドール」シリーズをはじめ、トアルコ トラジャや氷温熟成珈琲など差別性の高いプレミアムコーヒーの拡販活動を推進しました。また、きめ細やかでクリーミーな泡立ちの新感覚アイスコーヒー「コールド クレマ」の導入店増加を推進しました。お取引先への売上支援策としては、作りたてのおいしさにこだわった「本格欧風ビーフカレー」など3アイテムを発売するとともに、同商品を使用した「2018 カレーフェア」を実施しております。また、シュクランジュシリーズの新商品として、なめらかな触感のドーム型クリームケーキ「真っ赤なりんごのケーキ」など3アイテムを発売しました。

家庭用市場では、トアルコ トラジャシリーズ全般をリニューアルするとともに、発売40周年記念として、柑橘系の風味が特徴であるトラジャ地方北部のペランギアン産コーヒー豆を使用した「ドリップ オン トアルコ トラジャ」を期間限定で発売しました。また、選りすぐりのアラビカコーヒーを100%使用したブランド「プレミアムステージ」をLP（ライブパック）豆製品へも展開し、新商品として精選加工と焙煎方法にこだわった「フルーティアロマ」、「エクセレントリッチ」の2アイテムを発売しました。

ギフト商品では、トアルコ トラジャとエチオピア モカの味わいが楽しめる「氷温熟成珈琲アイスコーヒー」ギフトや、リプトン紅茶とコラボレーションした「天然水プリズマ飲料」ギフトなど、全38アイテムをラインアップしました。

カフェ開業支援の施策として取り組んでおります、さまざまな立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFÉ」は5店舗出店となり、導入店舗総数は58店舗になりました。

業績につきましては、売上面では業務用市場、家庭用市場で前年を下回りましたが、原料用市場は販売数量の伸長により前年を上回る結果となり、全体では増収となりました。利益面では家庭用市場における販売単価の下落と販売商品構成の変化による販売利益の減少などにより、前年に比べ減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は142億76百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は2億43百万円（同52.4%減）となりました。

（飲食関連事業）

株式会社イタリアントマトでは、シーズンフェアとして、野菜の旨みが凝縮した「11種野菜のスープパスタ」、クラムチャウダー仕立ての「アサリのスープパスタ」を販売しました。店舗出店においては、神奈川県に「PANES HOUSE イオンモール座間店」など3店舗を出店する一方、不採算店の閉鎖を進め、店舗数は230店（直営店61店、F C店169店）となりました。

株式会社アマンドでは、アマンド六本木店において「トアルコ トラジャ発売40周年フェア」を開催し、トラジャコーヒーを使用したアレンジドリンクをはじめ、インドネシアの伝統的な辛味調味料「サンバルソース」を使用したスパイシーなフードメニューを提供しました。

業績につきましては、売上面では株式会社イタリアントマトにおいて不採算店の整理を進めたことなどにより前年を下回り、利益面では原材料価格の高騰及び人手不足を背景とした人件費の上昇、並びに変動費の上昇などにより営業損失となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における飲食関連事業の売上高は11億89百万円（前年同期比2.2%減）、営業損失は14百万円（前年同期は21百万円の営業利益）となりました。

（その他）

その他事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は11億57百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は1億44百万円（同4.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて15億88百万円増加し、481億83百万円となりました。

流動資産は18億40百万円増加し、273億72百万円となりました。これは現金及び預金の増加(14億83百万円増)、受取手形及び売掛金の増加(10億58百万円増)、原材料及び貯蔵品の減少(6億76百万円減)などによるものであります。

固定資産は2億52百万円減少し、208億11百万円となりました。有形固定資産は償却が進んだことにより21百万円減少しました。無形固定資産は22百万円減少し、投資その他の資産は繰延税金資産の減少(1億3百万円減)、投資有価証券の減少(92百万円減)などにより2億8百万円減少しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて15億48百万円増加し、143億23百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて16億61百万円増加し、115億44百万円となりました。

固定負債は1億13百万円減少し、27億79百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて40百万円増加し、338億60百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金の増加(89百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、現時点において平成30年5月9日に公表致しました業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,278	6,761
受取手形及び売掛金	11,427	12,485
商品及び製品	2,481	2,819
仕掛品	194	203
原材料及び貯蔵品	5,016	4,339
その他	1,151	779
貸倒引当金	△17	△16
流動資産合計	25,531	27,372
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,857	4,892
機械装置及び運搬具(純額)	1,981	1,927
土地	6,229	6,229
その他(純額)	1,056	1,053
有形固定資産合計	14,123	14,102
無形固定資産		
のれん	274	254
その他	162	160
無形固定資産合計	436	414
投資その他の資産		
投資有価証券	4,575	4,482
長期貸付金	88	82
繰延税金資産	241	137
差入保証金	1,303	1,332
その他	504	532
貸倒引当金	△209	△272
投資その他の資産合計	6,503	6,294
固定資産合計	21,063	20,811
資産合計	46,595	48,183

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,836	7,340
短期借入金	265	386
未払金	2,082	1,846
未払法人税等	108	119
賞与引当金	282	341
その他の引当金	3	3
その他	1,303	1,505
流動負債合計	9,882	11,544
固定負債		
長期借入金	398	363
再評価に係る繰延税金負債	478	478
その他の引当金	3	3
退職給付に係る負債	939	894
資産除去債務	229	237
その他	843	802
固定負債合計	2,893	2,779
負債合計	12,775	14,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,060	5,060
利益剰余金	29,570	29,521
自己株式	△2,504	△2,504
株主資本合計	36,754	36,706
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	403	493
土地再評価差額金	△3,545	△3,545
為替換算調整勘定	11	△19
退職給付に係る調整累計額	△241	△219
その他の包括利益累計額合計	△3,370	△3,290
非支配株主持分	435	444
純資産合計	33,819	33,860
負債純資産合計	46,595	48,183

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	16,498	16,624
売上原価	11,957	12,200
売上総利益	4,540	4,423
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	313	348
荷造運搬費	472	499
車両費	126	128
貸倒引当金繰入額	7	60
役員報酬	81	79
給料及び賞与	1,308	1,374
賞与引当金繰入額	239	245
退職給付費用	49	52
福利厚生費	221	241
賃借料	301	300
減価償却費	82	72
消耗品費	88	79
研究開発費	67	61
その他	665	650
販売費及び一般管理費合計	4,026	4,195
営業利益	513	228
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	16	15
持分法による投資利益	3	17
為替差益	1	20
受取家賃	5	7
固定資産受贈益	15	—
その他	12	10
営業外収益合計	57	73
営業外費用		
支払利息	2	3
貸倒引当金繰入額	—	2
その他	1	1
営業外費用合計	3	7
経常利益	566	294

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
特別利益		
段階取得に係る差益	21	—
特別利益合計	21	—
特別損失		
投資有価証券売却損	—	3
特別損失合計	—	3
税金等調整前四半期純利益	588	291
法人税、住民税及び事業税	88	86
法人税等調整額	123	52
法人税等合計	212	139
四半期純利益	376	152
非支配株主に帰属する四半期純利益	29	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	346	144

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	376	152
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	107	92
為替換算調整勘定	△12	△32
退職給付に係る調整額	3	22
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△1
その他の包括利益合計	102	81
四半期包括利益	479	233
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	450	224
非支配株主に係る四半期包括利益	28	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,147	1,216	15,363	1,134	16,498	—	16,498
セグメント間の内部売上高 又は振替高	119	6	126	378	505	△505	—
計	14,266	1,222	15,489	1,513	17,003	△505	16,498
セグメント利益	512	21	534	138	672	△158	513

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億58百万円には、セグメント間取引消去 △10百万円、棚卸資産の調整額 2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億50百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,276	1,189	15,466	1,157	16,624	—	16,624
セグメント間の内部売上高 又は振替高	124	6	131	476	607	△607	—
計	14,401	1,196	15,597	1,634	17,231	△607	16,624
セグメント利益又は損失 (△)	243	△14	229	144	373	△144	228

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億44百万円には、セグメント間取引消去 △12百万円、棚卸資産の調整額 2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。